



## 平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成23年11月11日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ベリテ

コード番号 9904 URL <http://www.verite.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 平野 和良

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営企画室長兼経理財務グループ部長兼情報システム部長 (氏名) 菊地 広毅

TEL 045-415-8800

四半期報告書提出予定日 平成23年11月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第2四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	4,417	△8.2	△166	—	△230	—	△267	—
23年3月期第2四半期	4,809	—	20	—	3	—	△65	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	△11.58	—
23年3月期第2四半期	△2.83	—

(注) 当社は、22年3月期第2四半期につきましては、連結財務諸表を作成しているため、23年3月期第2四半期売上高等の増減については記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	11,108	6,300	56.7
23年3月期	9,592	6,568	68.5

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 6,300百万円 23年3月期 6,568百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

当社は、新規事業であるブランド事業において積極的な新規出店を行っており、当社の業績は、新規出店の動向により大きく変動する可能性があり、現時点において業績予想を行うことは困難であるため、引き続き未定としております。当社といたしましては、株主及び投資家の皆様に対する情報開示を一層推し進めるため、業績予想につきましては、合理的に予想可能となった時点で速やかに公表いたします。

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	24,654,825 株	23年3月期	24,654,825 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	1,600,352 株	23年3月期	1,599,422 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	23,054,975 株	23年3月期2Q	23,058,097 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

四半期決算短信(添付資料)P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

当社は、平成23年12月5日(月)にアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する決算説明資料については、開催後速やかに当社ホームページへ掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(5) セグメント情報等 .....	7
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災や原子力発電所の事故の影響により低迷していた企業活動は概ね回復し、企業の生産活動が回復するに伴い景気の持ち直し傾向が見られたものの、欧州債務問題の深刻化など海外経済の減速に起因する円高や株式市場の低迷等により、景気の先行きは不透明な状況が継続しております。

宝飾品小売業界におきましては、第1四半期には大震災後の消費自粛の影響を受けましたが、第2四半期以降は徐々に持ち直し、“絆”需要を背景に回復基調となっておりますが、本格的な回復には至っておらず、引き続き厳しい状況となっております。

このような状況のもと、当社は、宝飾事業2店舗、ブランド事業9店舗の新規出店及び宝飾事業6店舗の退店を実施いたしました。ブランド事業においては、本年3月に1号店出店以降、積極的に出店を実施しており、知名度向上を目的としたマーケティング活動に注力しております。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は4,417百万円（前年同四半期比8.2%減）、営業損失は166百万円（前年同四半期は営業利益20百万円）、経常損失は230百万円（前年同四半期は経常利益3百万円）、四半期純損失は267百万円（前年同四半期は四半期純損失65百万円）となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

#### [宝飾事業]

宝飾事業におきましては、震災後の消費低迷を想定し、売上高の伸長ではなく収益性の向上を図るべく、サプライチェーンの構築等による商品原価率の軽減や値引き販売の抑制など、収益の確保に向けた体制づくりを実施いたしました。その結果、当第2四半期累計期間における粗利益率は前年同期比で5.5%と改善し、外部顧客に対する売上高は4,338百万円となり、セグメント利益は461百万円となりました。

#### [ブランド事業]

ブランド事業におきましては、4月に三宮店（兵庫県神戸市）、池袋東武店（東京都豊島区）、7月に倉敷店（岡山県倉敷市）、8月に伊勢丹浦和店（埼玉県さいたま市）、名古屋三越栄店（愛知県名古屋市）、9月には西宮阪急店（兵庫県西宮市）、静岡伊勢丹店（静岡県静岡市）、東急百貨店たまプラーザ店（神奈川県横浜市）及び銀座1丁目に旗艦店の銀座店（東京都中央区）をオープンし、平成23年9月末の店舗数は、埼玉県1店舗、東京都2店舗、神奈川県1店舗、静岡県1店舗、愛知県1店舗、大阪府1店舗、兵庫県2店舗、岡山県1店舗の計10店舗となりました。3月の初出店以降、大震災後に新店時期を見直したことより第2四半期後半に出店が集中したため、当第2四半期累計期間における外部顧客に対する売上高は79百万円となり、銀座旗艦店オープンに合わせたマーケティング活動を行った結果、セグメント損失は190百万円となりました。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

#### ①資産、負債及び純資産の状況

##### (資産)

当第2四半期会計期間末における資産合計は11,108百万円となり、前事業年度末に比べ1,515百万円の増加となりました。これは主に、現金及び預金、及び商品が増加したこと等によるものであります。

##### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は4,807百万円となり、前事業年度末に比べ1,783百万円の増加となりました。これは主に、短期借入金が増加したこと等によるものであります。

##### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は6,300百万円となり、前事業年度末に比べ267百万円の減少となりました。これは主に、四半期純損失の計上による利益剰余金の減少によるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前事業年度末に比べ319百万円（40.8%）増加し、1,102百万円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間における営業活動による資金の減少は1,254百万円（前年同四半期は資金の増加125百万円）となりました。これは主に、たな卸資産の増加906百万円及び仕入債務の減少97百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間における投資活動による資金の減少は111百万円（前年同四半期は資金の減少84百万円）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出104百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期累計期間における財務活動による資金の増加は1,694百万円（前年同四半期は資金の増加193百万円）となりました。これは主に、短期借入金増加1,695百万円によるものであります。

## （3）業績予想に関する定性的情報

宝飾品小売業界におきましては、震災後の“絆”需要の高まりによる追い風もございましたが、欧州債務問題の深刻化などで景気の先行き懸念が強まる中、引き続き厳しい経営環境が予想されます。このような状況のもと、当社は、宝飾事業においては収益体質の安定化に一定の目途が立ち、より一層の収益性の向上のため、サプライチェーンの構築等による商品開発力の強化や社員教育を通じて宝飾品が持つ素材特性を活かした付加価値の提供を図ってまいります。

ブランド事業においては、10月にさっぽろ東急店（北海道札幌市）、小倉井筒屋店（福岡県北九州市）、11月にまるひろ川越店（埼玉県川越市）、Terrace Mall湘南店（神奈川県藤沢市）、丸井今井札幌店（北海道札幌市）、12月には関西旗艦店となる神戸元町店（兵庫県神戸市）を出店する予定となっております。

通期の業績予想につきましては、新規出店の動向により大きく変動する可能性があり、現時点において業績予想を行うことは困難であるため、引き続き未定としております。

当社といたしましては、株主及び投資家の皆様に対する情報開示を一層推し進めるため、業績予想につきましては、合理的に予想可能となった時点で公表することとしております。

## 2. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社は、当第2四半期累計期間において166百万円の営業損失を計上し、前々期まで2期連続して営業損失を計上しております。当該状況により継続企業の前提に関する重要な事象等が存在しております。

当該状況を解消すべく、ダイヤモンド専門店化と営業組織の強化を骨子とした新中期経営計画を策定し、計画の達成に向け取り組むことで収益力の回復を図ってまいりました。

また、当社は、従来より日本GE株式会社と、リボルビング・ローン契約を締結しておりますが、平成23年7月1日付で極度額を20億円に増額する変更契約を締結いたしました。

以上の結果、継続企業の前提に関する重要な不確実性は、認められないものと判断しております。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,591	2,320
受取手形及び売掛金	469	514
商品	4,459	5,368
その他	494	581
貸倒引当金	△25	△26
流動資産合計	6,989	8,758
固定資産		
有形固定資産	331	510
無形固定資産	23	29
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,508	1,413
その他	744	410
貸倒引当金	△4	△13
投資その他の資産合計	2,248	1,809
固定資産合計	2,602	2,349
資産合計	9,592	11,108
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,276	1,179
短期借入金	895	2,590
未払法人税等	69	41
返品調整引当金	18	26
その他	395	570
流動負債合計	2,654	4,407
固定負債		
長期借入金	200	200
退職給付引当金	115	143
ポイント引当金	42	49
その他	10	6
固定負債合計	369	400
負債合計	3,024	4,807
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,772	3,772
資本剰余金	4,052	4,052
利益剰余金	△910	△1,177
自己株式	△326	△326
株主資本合計	6,588	6,321
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△19	△20
繰延ヘッジ損益	—	△0
評価・換算差額等合計	△19	△20
純資産合計	6,568	6,300
負債純資産合計	9,592	11,108

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	4,809	4,417
売上原価	2,377	1,934
売上総利益	2,432	2,482
販売費及び一般管理費	2,411	2,648
営業利益又は営業損失(△)	20	△166
営業外収益		
地金売却益	14	8
受取手数料	18	20
雑収入	4	8
その他	5	4
営業外収益合計	42	41
営業外費用		
支払利息	4	20
為替差損	33	40
支払手数料	13	34
その他	7	8
営業外費用合計	59	104
経常利益又は経常損失(△)	3	△230
特別利益		
貸倒引当金戻入額	23	—
前期損益修正益	17	—
ポイント引当金戻入額	21	—
特別利益合計	62	—
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	81	—
その他	12	0
特別損失合計	103	9
税引前四半期純損失(△)	△37	△239
法人税、住民税及び事業税	28	27
法人税等調整額	—	0
法人税等合計	28	27
四半期純損失(△)	△65	△267

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失(△)	△37	△239
減価償却費	45	54
減損損失	11	0
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	81	—
店舗撤退損	9	9
前期損益修正損益(△は益)	△17	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	30	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△20	10
退職給付引当金の増減額(△は減少)	22	27
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△12	6
為替差損益(△は益)	33	39
支払手数料	13	34
支払利息	4	20
売上債権の増減額(△は増加)	167	△45
たな卸資産の増減額(△は増加)	△166	△906
仕入債務の増減額(△は減少)	△59	△97
その他	52	△82
小計	158	△1,167
支払手数料の支払額	△13	△38
利息の支払額	△5	△19
法人税等の支払額	△55	△54
その他	41	26
営業活動によるキャッシュ・フロー	125	△1,254
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△1,923	△1,360
定期預金の払戻による収入	1,866	1,281
有形固定資産の取得による支出	△96	△104
無形固定資産の取得による支出	△0	△12
投資有価証券の売却による収入	8	5
貸付けによる支出	△136	△0
貸付金の回収による収入	132	7
敷金及び保証金の差入による支出	△33	△56
敷金及び保証金の回収による収入	102	156
その他	△5	△26
投資活動によるキャッシュ・フロー	△84	△111
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	193	1,695
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	193	1,694
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	△9
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	225	319
現金及び現金同等物の期首残高	591	783
現金及び現金同等物の四半期末残高	816	1,102

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

当社は、宝飾事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第2四半期累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	宝飾事業	ブランド 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,338	79	4,417	—	4,417
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,338	79	4,417	—	4,417
セグメント利益又は損失 (△)	461	△190	270	△436	△166

(注) 1. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△436百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用436百万円が含まれております。全社費用の主なものは、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、従来量的基準より判断して、セグメント情報の記載を省略しておりましたが、第1四半期累計期間より「ブランド事業」の量的な重要性が増したため、「宝飾事業」と「ブランド事業」の2つを報告セグメントとしております。

なお、前第2四半期累計期間においては、単一セグメントであったため、セグメント情報の記載は省略しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。